

診断あきた

◆発行者 一般社団法人 秋田県中小企業診断協会 ASCA
所在地 〒010-0013 秋田市南通築地1番1号
郵便物 〒010-8799 秋田市保戸野鉄砲町5-1
秋田中央郵便局私書箱第25号
ホームページアドレス <http://www.shindan-akita.com/>
メールアドレス info@shindan-akita.com



令和7年9月1日

第33号

巻頭言



『日診連』をよろしく！

会長 佐瀬道則

昭和29年（1954）社団法人中小企業診断協会が設立されました。初代会長は工藤昭四郎氏。その後政府より中小企業診断員に関する登録関連の一連の業務の指定法人となり、昭和38年（1963）に第1回中小企業診断員試験が実施されました。

平成25年（2013）に一般社団法人へ移行し、70周年を迎えた昨年（2024年）の総会決議を経て10月1日に正式名称を「（一社）日本中小企業診断士協会連合会（Japan Federation of Certified Management Consultant's Associations）」と変更し、略称を「日診連（JF-CMCA）」といたしました。

これにより名実ともに日本の経営コンサルタントの国家資格集団である全国47都道府県協会の連合体として、諸外国始め対外的にも分かりやすい名称となりました。

1. 昨年度の活動状況

令和6年度の活動は、例年通り総会、理事会、登録更新研修等を開催したほか、7月13日の第1回オープンセミナーでは(株)ブラウブリッツ秋田の岩瀬浩介氏、10月5日の第2回オープンセミナーでは東成瀬テックソリューションズ(株)の近藤純光氏、11月2日

の「しんだんしフェスタ」では東北経産局の酒井原啓人経営支援課長と前海上保安大学校長の江口満氏をお招きして、それぞれご講演をいただきました。

また私事ですが、11月6日に開催された「日診連」の創立70周年記念式典で中小企業長官表彰を受賞し、これもひとえに会員各位と関係機関のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

2. 今年度の事業計画

今年度は、7月に第1回オープンセミナーとして、元斉藤光学製作所社長で現在は(有)サイテックの代表を務める齊藤伸英氏による講演会を開催したほか、9月に第2回オープンセミナー、11月には恒例の「しんだんしフェスタ」を実施する計画です。

3. 拡がるネットワーク

本年7月時点で本県協会会員は43名（新入会員紹介および名簿後掲）となりました。

従前から継続している「伴走支援」「事業継続力強化計画（ジギョケイ）実効性向上支援」「生活環境衛生関連事業者経営支援」に加えて、今年度は県内各支援機関や東北経産局との連携を一層強化するとともに、東北六県各協会との情報交流や人的交流も盛んにすることでネットワークを更に拡げて行く所存です。

関係各位におかれましては、当協会及び所属会員に対し、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。会報発行のご挨拶といたしますとともに、新生『日診連』を、何卒よろしくお願いいたします。



荒 牧 敦 郎

『日本経済の死角
ー収奪的システムを解き明かす』
河野 龍太郎 著（ちくま新書）

本書で著者は繰り返し語る。

「日本の生産性は上がっているのに、実質賃金は上がっていない。それが日本の長期停滞の原因である」この指摘は意外だった。賃金を上げるためには生産性の向上が必要であり、日本では生産性が向上していないので実質賃金が上がらない。そう思っている人は多いのではないだろうか。著者が示す実証的データを読み解くと、そうではないことが明らかである。

日本では1998年から2023年までの四半世紀に時間当たり労働生産性は累計で30%ほど上昇しているが、時間当たりの実質賃金はほぼ横ばいのままであり、正確にはインフレの影響もあり3%程度下落している。

他国の状況をみると、日本のおかしさがよく分かる。同じ期間において、米国の生産性は50%上昇し、実質賃金は25%上昇している。ドイツは、生産性の25%上昇に対して実質賃金は15%上昇し、フランスは、生産性の20%上昇に対して実質賃金は20%上昇している。すなわち、日本の生産性上昇の度合いは米国を下回っているが、ドイツとフランスを上回っている。それにも関わらず、実質賃金はこれら3か国とは違ってまったく上がっていないのだ。著者はその状況を「収奪的システム」と呼ぶ。

この本におけるキーワードは、「収奪的」と、その対義語の「包摂的」である。著者は、ダロン・アセモグル、ジェームス・A・ロビンソンの『国家はなぜ衰退するかー権力・繁栄・貧困の起源』を引用し、その意味を説明する。衰退する国家の制度は収奪的であり、一部のエリートが富を独占する。繁栄する国家の制度は包摂的であり、幅広い人々が政治プロセスに参加し、権力が分散されて、自由競争と技術革新が奨励され、豊かさを分かち合う。

著者は日本が収奪的な社会に向かっていることを懸念している。例えば、日本で生産性向上の果実はどこに向けられているのだろうか。1990年代末に130兆円

だった企業の利益剰余金は、アベノミクスがスタートする直前に300兆円超まで増加し、2023年度は600兆円の太台に乗った。一方、過去四半世紀、実質賃金は横ばいだった。すなわち、日本の企業、特に大企業は儲かっても溜め込んで、賃上げにも人的資本投資にも消極的であり、それが日本の長期停滞の元凶となった。

企業が利益を人的投資や設備投資には使わず、借金返済や貯蓄に向ける行動を取るようになったのは、バブル経済に端を発している。企業はバブル期に過剰雇用、過剰設備、過剰債務を抱え、バブル崩壊後に債務を返済するためにコストカットに邁進し、膨張していたバランスシートを健全化させた。さらに、過剰債務が解消され財務内容が筋肉質になっても、企業は「守りの経営」を追求し続けた。

その結果、生産性が上がっているにもかかわらず、企業が実質賃金を抑え込むから個人消費が低迷する。それゆえ、国内では売上が増えないから国内の投資が抑えられる。つまり、企業が実質賃金を抑えることで、巡り巡って自らの首を絞める事態、すなわち「合成の誤謬」に陥っているのである。

著者は「包摂的」な施策の重要性を説く。日本で非正規雇用が増えたことを踏まえ、本来なら社会保障制度のアップグレードを図るべきだったが、政府はそれを怠った。また、欧州の国々ではITデジタル革命などに対して、職業訓練や家族政策を充実させ、セーフティネットでカバーする領域を広げている。それを手本とすべきだったにもかかわらず、日本は社会制度の漸進的改革を怠ってきたと、著者は述べる。

本書は、イノベーションの問題も取り上げている。イノベーションには、大多数の人々に豊かさをもたらす包摂的なイノベーションと、一部の人々にばかり恩恵が集中し、大多数の人々には、むしろ大きな負担や苦痛を強いる収奪的イノベーションの二つがある。もし、新しい機械の導入によるイノベーションで自動化が進み、単に労働者数を削減することが可能となるだけであれば、実質賃金にはむしろ低下圧力がかかる。一方、機械の導入によって労働者の能力が強化され、新たな仕事を担うこともできるようになれば、労働需要が増えるので実質賃金は上昇する。

著者は、AIなどのテクノロジーを、労働者を補完して、より高度な業務を行うためのサポートとすることが可能であり、そうした包摂的なイノベーションに方向を定めることが大切であると述べる。

本書は、バブル崩壊後の日本経済停滞の原因や、今後、進めるべきイノベーションの方向性について示唆に富む内容であり、一読をお勧めする。

新会員から一言



岡部 宗澄

生年月：1981年2月

勤務先：三井住友海上あいおい生命保険㈱
東北営業部・秋田生保支社

【自己紹介】

はじめまして。岡部宗澄（おかべたかずみ）と申します。三重県生まれで、2023年から秋田県に単身赴任して参りました。家族構成は妻・長男（高1）・長女（中1）の四大家族です。現在家族は兵庫県西宮市に住んでおり、月に1回程度家族の元に帰っています。主な職務内容は保険代理店への経営サポートです。保険代理店業を経営の視点で捉えると、在庫を持たないという特徴があり、人財育成が経営上の最重要課題です。また、「資産は既存顧客」という点も特徴的であり、固定客を有する多くの士業の方々からも親和性の高い事業多角化の選択肢として支持されています。

【中小企業診断士取得の動機】

きっかけは2023年4月より秋田県に単身赴任となり、地域貢献・自己実現・職務内容との親和性を考慮し受験を志しました。地域貢献の観点では、「自分が秋田県で仕事をする理由」を改めて考え、これまでの関西・中部での企業営業経験を活かし、秋田県の地域経済に貢献したいと考えております。自己実現の観点

では55歳の役職定年時に様々な選択肢を持っておく事が目標です。職務内容との親和性の観点では、人財育成・マネジメント・マーケティング面で日々の業務に直結しています。

【関心分野】

マーケティング、組織構築・マネジメント・人材育成分野を強みにしていきたいと考えております。小職のような、いわゆる企業内診断士においては、資格を取ることと同じくらい、活用することに工夫が必要だと思います。経験やノウハウ・人脈がない分、結果を恐れず実行に移すことが必要と感じており、まずは、取引先企業への助言活動を始めていきたいと思っています。また、地域貢献の観点では、ふるさと納税を重要テーマと考え、地域と連携して全国で返品品をバズらせるような取組に参画していきたいと考えています。

【趣味・特技】

半年前から趣味でジムに通っており、体重が82→72Kgと大幅減少しました。また、環境破壊に繋がる草刈ゴルフも、今年は100切りを目指してSDGsに貢献したいと思っています。日本酒が盛んな土地柄の中、なぜか赤ワインにハマっています。最近ではブドウ品種を当てられるようになってきました。

【好きな言葉】

父親の仕事は子供のやる事に口を挟まないこと。
（見守る・任せる・認める）



三平 久孝

「フェアプレイと
チャレンジ精神で、
地域と企業を支えたい」

1 自己紹介

この度、秋田県診断協会に加入いたしました三平久孝（みひら ひさたか）と申します。

66歳の春、長年勤めた商工会連合会を退職し、4月より診断士として独立しました。診断士取得は平成13年4月ですが、商工会を職員230名の中小企業と見立て、「ヒト」「モノ」「金」「情報」を最適化するための組織マネジメントの業務に携わってきました。

その中でも、平成10年からの「商工会合併」や平成29年からの商工会総合発展5か年計画の「商工会創生プラン」への取り組みは忘れられない思い出です。

2 第二の人生のチャレンジ

私は、現在も趣味として野球審判を20年以上続けていて、その経験は、私の仕事観にも通じています。グラウンドで求められるのは「冷静な判断力」と「フェアプレイの精神」。

これは中小企業支援や地域振興の場面においても変わりらないと思います。先入観にとらわれず、事実と

向き合い、公平な立場で状況を見極め、経営者等と一緒に最善策を模索していく。まさに“企業経営という試合”を公正に進める伴走者として、これまでの経験と情熱を注ぎたいと思っています。

いま、地域や中小企業を取り巻く環境は激しく変化しており、これらに対応するため、ほとんどの事業者は大変苦勞しています。

物価高や賃上げによる経営コストの上昇で利益は圧迫され、生産労働人口の減少で人手不足から仕事を断り、デジタル化も人材不足でなかなか進まない。

加えて、ウクライナ侵攻や中東紛争、さらにはトランプ関税など、先行き不透明感が増すばかりです。こうした方々に、少しでも役に立ちたいと強く願っています。

3 今後の抱負

しかしながら、私自身は未熟で、まだまだ勉強の毎日ではあります。

何卒、諸先輩のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

これからの新しい出会いと学びに感謝しつつ、不安と期待を胸に「フェアプレイ」と「チャレンジ」の精神で、地域と企業の未来づくりに頑張ってまいります。

さあ、人生第二試合の開始です。

「プレイボール！」

私の思いを語る

自費出版しました

荒牧敦郎



『秋田にラスベガスを創る』という書籍を本年4月に自費出版しました。といっても、費用は私が出した訳ではなく、所属しているイーストベガス推進協議会という団体が負担しました。経緯は次の通りです。

この団体はNPO法人として活動してきたのですが、2025年3月末をもってNPOを解散し、任意団体として活動を続けることになりました。解散の際に法人の財産を任意団体に引き継ぐことができないため、その財産を使って本書を自費出版することにしたのです。

書籍の内容は、イーストベガス推進協議会の活動、すなわち、人口減少が進む秋田にラスベガスのような観光都市を建設し、世界中から観光客を集めようという「構想」を生み出し、構想の実現に向けて推進する活動、その最初の約6年間の記録です。数年前に私が文章化し、イーストベガス推進協議会のホームページに掲載していましたが、今回、それを書籍化しました。基本的に事実に基づいた物語ですが、関係者の誰に聞いても記憶がはっきりしない細部などに関しては、想像で補って記述しています。

この物語の出だし、イーストベガス構想が生まれる辺りは、時期的には今から30年近く前の話になりますが、現在の状況とシンクロする部分が多く不思議に感じます。例えば、今年春の秋田県知事選挙では、秋田県の人口減少にどう対応するかということが大きなテーマになりましたが、秋田にラスベガスを創るという構想は、人口減少が進む地域にどうやって活力を取り戻すかという問いへの回答として創り出されたものです。選挙のあり方自体に関しても、今回の選挙で行われた候補者による討論会が、この物語の中でも行われますし、最近の選挙で結果をも左右するようになったネットの活用についても、物語の中にその萌芽的な形態の発生を見ることができます。

採用した自費出版の方法についてお伝えします。

自費出版を取り扱う出版社は、全国的にはもちろん多数ありますし、秋田県内にもあります。最終的に選んだ出版方法は、「お手軽出版ドットコム」（以下、「お手軽出版」）というネット出版（会社名：株式会社ブイツーソリューション）の利用でした。

選ぶ上で決め手となったのは、第1に費用の安さ、第2にネット上でほとんどの手続きが完結できること

です。費用に関しては、大手出版社の自費出版部門など編集担当者がつく所は、今回の出版のレベルでも2～3百万円になります。お手軽出版での費用は、80万円台と非常にリーズナブルでした。

出版の概要は、本のサイズ・四六版、本文モノクロ印刷、ページ数440ページ、印刷部数450部、書籍の流通はアマゾンのみで販売（200部）、電子出版（アマゾンのKindle等）の配信あり、本文の原稿・完全データ原稿（レイアウト完成済みのWord・一太郎等の原稿データを送付する）、装丁デザイン・自分でする、カバーあり、帯なし、校正刷り2回、などです。

お手軽出版のサイト上では、上記の条件を入力すると瞬時に見積金額が表示されます。一部の条件を変更すると即座にそれが反映された金額が表示されます。これは出版の条件を決める上でとても便利でした。

今回の出版で良かったと思うのは、装丁デザイン（カバー表紙のデザイン）を自分でやったことです。実際には、私ではなく、イラストレーターというデザインソフトを使える知人に作成を頼み、細部について二人で相談しながら完成させました。お手軽出版が用意する既成のデザインは百種類以上あります。それを使ってもセンスの良いデザインを作ることにはできるのですが、実際に出版した例をみると、よく言えば素朴、悪く言うと、いかにも自費出版と分かるようなダサい感じがしました。今回、デザインセンスのある知人に頼んだことで、書籍の見た目はかなり本物っぽくなったと思いますが、いかがでしょうか。

反省点は、校正です。今回の出版条件で、校正はほぼ全面的にこちらでやることになりました。誤字脱字の有無など、それなりに注意したつもりですが、全体で400ページ超の本でもあり、印刷・製本した後になって校正ミスが結構見つかりました。

次に、書籍出版という経験をする事で持った感想について書きます。

印刷に進んでから書籍が出来上がるまでの期間は、約1か月です。この間、最初に「本を出版した」という実感を持てたのは、アマゾンのサイト上にこの書籍の予約受付が掲載された時です。当然、カバー表紙の画像も、著者名として私の氏名も掲載されます。それを見たときは、かなり感動しました。

書籍が完成すると、「本を出した」ということへの反応がいろいろありました。その一つが、この会報誌に出版の経験談を書くことになったことです。書籍の内容は、すでにネット上に掲載していた文章なので、

書籍化しても周りの反応はあまり変わらないのではないかと考えていましたが、実際は、思った以上の反応がありました。やはり、サイト上の文章と書籍化するのでは受け取られ方が全然違うようです。

実際に手に取り読んでくれた人からは、その感想を聞くことも増えてきました。書いた本人に悪く言う人はあまりいないので、大体は好意的な感想を言ってくれるのですが、それを聞けてうれしかったです。中には、私を「文豪」とまで持ち上げてくれる人もいて気分が上がりました。

最後に、中小企業診断士らしくマーケティングについて書きます。わずか数百部の出版とは言え、やっぱり売れないより売れた方がいいです。

最初にやったのは、Facebookなどで出版したことを告知する投稿を行ったことです。よく言われるSNSの活用です。ただし、私が投稿したところで大した効果はなかったのですが、物語の主人公にあたる人が

投稿した時は、ある程度知名度のある人だったので、より大きな反応がありました。次に、アマゾンでの販売増加を狙い、読んでくれた人に、アマゾンのサイト上で評価の星印とカスタマーレビューの投稿をお願いしました。これも全然レビューがないのと、いくつかあるのでは印象が大違いです。しかも書いてくれた人は、今のところ全員5つ星をつけてくれているので、それなりに購買動機を喚起したのではないのでしょうか。

影響力のある人に書籍を送り反応を引き出す試み、インフルエンサーの活用にも取り組んでいます。これは、まだ実施の途中であり、効果は未確認です。

この書籍にご興味を持たれた方は、アマゾンのサイトで紙の書籍および電子出版の購入が可能です。さらに、県内の主要書店でも発売予定ですので、ぜひ手に取り読後の感想など教えていただけましたら、幸せ至極です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年理論政策更新研修に参加して

渡 部 信 子

令和6年9月7日、理論政策更新研修が秋田市遊学舎にて開催されました。

1人目の講師である秋田県産業労働部産業政策課政策監、荒川祐次氏より本年度の重点施策が紹介されました。【新秋田元気創造プラン】に基づいて1つ目『未来の秋田を支える人への投資』としては人材確保育成、定着環境整備、外国人材受け入れサポート等の事業について、2つ目『選択・集中プロジェクト』としては賃金水準、カーボンニュートラル、デジタル化推進事業について、3つ目は『気候変動に対応した防災力の強化』について、4つ目は『物価高・原材料価格高騰当への対策』について、具体的内容を講演頂きました。どの施策も中小企業にとって身近で、社会環境に照らして必要な施策です。これらの施策についてクライアントにわかりやすく説明し、活用できるよう手助けすることが中小企業診断士の役割であることを再認識しました。

メイン講師は、馬島泰明氏で『中小企業の人材戦略支援～人が定着し組織と事業が成長し続ける仕組みをつくる～』をお話頂きました。

経営とは『人・もの・カネ・情報』をどう活用し、企業にとって、または顧客にとっての必要な価値を生みだしていくかです。この4つの中で【人】は最もパフォーマンスの変動が激しく、この15年は労働力需給環境がますます厳しくなる中、経営戦略と人材戦略は双方向で整合性を諮り統合していくパターンが私には最も腹落ちしました。『組織は戦略に従う』（チャ



ンドラー）と『戦略は組織に従う』（アンゾフ）を繰り返し交互に確認し合い、組織が成長していくというものです。

その後、人事制度構築の話に移っていき、演習は『ある悩み深い企業の事例』に取り組みました。内容は私自身もほどよく目にする組織の問題なのですが、一緒に取り組んだ松館さんの考える施策と理由にほっとしました。というのも日頃、ほかの中小企業診断士と同一の事例を考えるとということはありませんが、松館さんは私の札幌商工会議所養成課程の1期先輩で、半年間毎日のようにこんな演習を繰り返していたことを思い出し、松館さんに改めて敬意を感じた次第です。

理論政策更新研修も、オープンセミナーも私は入会以降ほとんど欠かさず出席していますが、セミナーの内容もさることながら、同業者にお目にかかることで多くの情報を手に入れています。本理論政策更新研修後は、コロナ禍後初めての懇親会も開催されました。今後もこれらの研修機会を通じて、自身の事業を発展させて参りたいと思います。



さくらだコンサルティング事務所

代表 櫻田 誠 二

『65歳、新たな出発』

この度、地元の金融機関に38年、金融機関のグループ会社に転籍し5年勤務しましたが、今年（2025年）2月末で、会社員生活に別れを告げ、4月から独立開業しセカンドステージをスタートさせました。現在は、秋田県よろず支援拠点コーディネーター、秋田県事業承継・引継ぎ支援センター専門家等をしていますが、牛歩のごとくゆっくりと一步一步前進している毎日です。

私が、中小企業診断士の資格を得たのは56歳の時です。遅咲きの診断士と言えます。でも、診断士試験を通して学習した知識を、その後の会社員生活で十二分に活用できたものと実感しています。

協会会員の皆さんには釈迦に説法かもしれませんが、試験科目7科目全てのうちで自分にとって特に役に立った科目を以下に記載してみます。

1. 企業経営理論

会社の年度・中期経営計画を企画するにあたって、SWOT分析やPEST分析、5フォース等のフレームワークを活用し、説得力のある資料作成ができました。

2. 財務・会計

年度の計数計画において四半期・本決算数字が確定すると、説明資料を作成し、取締役会や株主総会に報告し承認を得ますが、管理会計や財務分析・キャッシュフロー計算書・税効果会計の知識が大変役に立ちました。

3. 経営法務

役員の改選や定款の変更、株式交換などにおいて、基本的に必要とされる知識は受験時代のテキストを再度読み返し、無難に乗り切ることができました。

また、中小企業診断士の資格を取得する過程で身に着けた（と思われる）スキルを以下に記載してみます。

1. 文章作成

中小企業診断士第2次試験では、問われていることに対して、指定された文字数内で解答しなければなりませんので、文章構成トレーニングとし

て、日経新聞1面の下部に毎日掲載されている500～600字のコラム「春秋」を40字以内でまとめるというトレーニングを続けることで、文章の要約力を養うことができましたし、逆に骨子を肉付けして文章を作成することもできるようになりました。

2. 論理的思考

中小企業診断士第2次試験において必須となるロジカル・シンキングの基本は、物事を構造的に分解して捉えることと、モレなくダブリなく（MECE）考えることの2つにあるということができると思います。ビジネスにおいても課題解決を考える際に、演繹法や帰納法などを用いることで、ベストとはいかないまでも、ほぼ6割以上正解の解決策を導くことができたと思います。

3. 分析力

分析とは「A（の状況）とB（の状況）」、「以前と現在」の相違点を見つけることと解釈しています。これをさらに「つまりどういうこと？」もしくは「裏返ししてみるとどういうこと？」と思考することによって、多面的な分析ができたと思います。

中小企業診断士は、経営に関する一定の知識並びにそれを合理的に説明できるレベルにあることを証明する名称資格ですが、「独占業務」がないため、仕事が安定してあるわけでもありません。

ですが、人と人とのつながりを大事にすれば向こうからお声がかかることもあるかと思います。

経営コンサルタントとしての本格的なキャリアは今始まったばかりですが、定年もないので、体力・気力の続くうちは何歳になっても続けられる素晴らしい資格を得られたことに感謝し、日々スキルのブラッシュアップをして頑張っていこうと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



あすな社会保険労務士・中小企業診断士事務所

代表 鶴田 卓也

会報誌を通じて自己紹介の機会をいただきましたので、これまでの経緯や現在の活動、そしてこれから一緒に仕事ができたら嬉しいなと思っていることなど、ゆるく正直に綴ってみたいと思います。

◆ 診断士になったきっかけと、独立までの道のり

試験合格は2019年、診断士登録は2021年、独立したのは2025年です。実は2005年に社会保険労務士（2019年に特定付記）の登録もしておりまして、いわゆるダブルライセンス、今風にいうと二刀流（！？）で活動しております。

もともとは秋田県内の公的機関で働いており、総務部門に携わりながら、関連団体の経理指導、経営指導等を行っておりました。組織で働いていると、それなりに裁量のあるポジションも任されるようになり、システムの開発であったり、全国本部への出向であったり、それはそれでやりがいを感じる部分もあったのですが、社労士を取得したときから、士業で独立するという想いを強く持っていました。

そんな中、中小企業診断士という資格を目指そうと思ひ立ちました。何か強い目的意識を持っていたわけでもなく、今考えると不思議に思うのですが、何故か診断士試験にチャレンジしてみようと思ったのです。勉強すること自体にブランクがあり、進め方には苦労させられましたが、運よく1回目の挑戦で合格できました。翌年から新型コロナが流行したため、移動に制限がかかる社会となりました。もし、あのとき試験に合格していなければ、おそらく診断士試験は諦めていたでしょうから、このページには別の記事が掲載されていたことでしょう。

試験合格後、世の中はコロナ禍となったことで登録に必要な実務補習の受講が伸び伸びとなっていました。試験合格後の登録期限ぎりぎりに何とか登録要件を満たすことができ、2021年に晴れて中小企業診断士となりました。

その後、経営コンサルタント会社にお誘い頂き、2年半ほど診断士実務に従事した上で、晴れて独立開業となりました。

社会保険労務士と中小企業診断士は関連性が強く、シナジー効果が生めると実感しています。「労務と経営の未来を創るサポーター」をスローガンに企業支援

に従事していく所存です。

◆ いま取り組んでいる仕事と、現場で感じること

現在は、社会保険労務士、中小企業診断士の双方を活用し、様々な業務をさせて頂いております。社労士業務としては顧問業務のほか、就業規則の策定や助成金の申請業務、診断士業務としては、補助金に関する相談、経営改善計画の策定支援、事業承継計画の策定支援、等です。特に一つの業務・業種にこだわることなく、自分の知識・経験を全方位で発揮することを意識した企業支援を目指しているところです。

中小企業診断士は独占業務が無く、独立する方が少ないように見受けられますが、実際にこの世界に飛び込んでみると、様々な場面で必要とされるケースが非常に多いことを実感します。独立開業を目指している、目指したいという方は、積極的に情報を収集したり、独立系診断士とのコネクションを構築したり、とにかく行動することを強くオススメいたします。

◆ 今後の目標と目指している姿

診断士という資格は、独立にも、企業内活動にも、地域貢献にも、多様な活かし方ができるとも柔軟なものだと思っています。そんな柔軟性を活かして、一つのカテゴリに染まることなく、楽しみながら（重要！）、現場に立ち続けたいと思っています。

また、他士業との連携も重要ですが、診断士同士の連携も非常に重要だと思います。財務、IT、労務、工程管理、等様々なバックグラウンドを持つ人材によるチーム編成は非常に意義あるものだと思います。

個々の専門性が集まると、1+1が2ではなく3にも4にもなる。このダイナミクスをもっと広げていけたら、診断士の仕事も、自分自身の人生も、もっと面白くなるはずです。

この会報を読んで、「何か一緒にできそう」と感じてくださった方がいらっしゃれば、ぜひお気軽にご連絡ください。協会の勉強会やイベントなどでお会いする機会があれば、ぜひ声をかけていただけたら嬉しいです。皆さんと一緒に、楽しく、学び合いながら、診断士という仕事の可能性を広げていけたらと願っています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします！



ブレイス コンサルティング
BRACE CONSULTING

代表 藤 嶋 智

略 歴

昭和40年 大館市生
平成2年 秋田県庁入庁
平成25年 中小企業診断士登録
令和7年3月 秋田県庁退職
4月 中小企業診断士事務所を開設

◆ 中小企業診断士を志した原点

平成2年に秋田県の農林水産部技術職員として採用され、農業の生産性向上、新技術導入、資金調達支援、法人化推進など、農業者の挑戦を応援するような仕事に携わってきました。はじめは、農業生産の現場への新しい技術導入の相談対応や生産性向上への支援が中心でしたが、ある時から機械・設備導入の際の借入金の相談、補助事業の活用への対応、農業経営の近代化を図るための法人化の推進などの業務に関わるようになりました。

なかでも、負債を抱えた農家の経営再や農業経営の法人化を支援する場面では、当事者の納得を得ることの難しさを痛感し、伝える力の限界に悩みました。この経験から、自身の知識を深め、根拠のある説得力を身につけるべく、中小企業診断士の資格取得を目指しました。

◆ 組織内診断士として見えた景色

実際に中小企業診断士の資格取得のために得た知識や考え方は、職場内での同僚への説明やアドバイスなど様々な場面で役立っていることは多くの方が実感していると思います。

私が業務にあたった農業生産の現場でも、法人化する農業経営者が増えると同時に、個人経営とは違う悩みに向き合う場面も増えました。事業承継の問題、人材不足への対応、組織体制の整備などの新たな課題が顕在化しており、専門家（中小企業診断士、社会保険労務士、税理士など）の力をお借りしながら相談対応を行っています。専門家に同行しながら相談対応する場面に臨むたびに、土業で活躍する方への憧れと、自分も主体的に課題解決のために支援する側に立ちたいという思いが強くなっていきました。

◆ 独立を決めたとき

「いつかは独立」という思いは資格取得時から抱い

ていた気もしますが、子どもの教育費や将来のライフプランを前に、リスクを避ける選択をせざるを得ませんでした。

それでも、「いつかは独立、いつでも独立、という思いがありました。数年前、自身のキャリアが見つめ直し、定年延長ではなく独立診断士として、開業する道を選択する決意を固めました。

子供たちが社会人になり、家族の承諾も得られたことで、役職定年を機に、定年前の自主退職という形で、新たな一歩を踏み出すことにしました。

◆ 中小企業診断士という名のパスポート

中小企業診断士は「独占業務がないため独立は難しい」という声もあります。しかし、私にとっては、中小企業診断士の資格は、「社会に挑戦するためのパスポート」みたいな存在だと実感しています。この資格があることで、専門家登録の要件を満たし、企業や関係機関の門を叩く勇気が生まれ、話を聞いてくれる人が現れ、その多くは扉を開けてくれます。少なくとも、挑戦する機会を得ることができるのは確かです。

開業準備中は、不安もありましたが、屋号を考えているときなどは、未来へのワクワク感の方が勝っていました。「BRACE（ブレイス）」には“支える”という意味もあり、誰かの支えとなる存在でありたいという願いを「BRACE CONSULTING」という名に託しました。

◆ 地域に根差した貢献を目指して

自分の「強み×機会」を考えたとき、これまでの経験が生かせる農業分野の業務が柱の一つになります。

また、地方で独立したての中小企業診断士にとっては、公的機関の業務を獲得していくことも必要なことでした。幸いにもいくつかの契約を結ぶことができたことは、運が良かったと思っています。

今後は、中小企業診断士が不足する県北地域で、地域の経営者や支援団体、金融機関と連携し、地域に貢献できるよう尽力していきたいと考えています。そのためにも、中小企業診断士としての専門性をさらに磨き、地力を高めていく所存です。

これからも、一步ずつ、信頼と実績を重ねていきたいと思いますので、関係各位におかれまして、引き続き、ご指導を賜りますようお願いいたします。

第70回定時総会 出席報告

佐 瀬 道 則



令和7年6月16日（月）、銀座フェニックスビルを会場に連合会本部の「第70回定時総会」が開催されました。記念すべき70回目です。

1. 議案

今年度の議案審議事項は以下の通りです。

第1号議案 令和6年度事業報告及び決算承認

第2号議案 令和7年度事業計画及び予算報告

第3号議案 役員の増員に関する件

以上について、いずれも満場一致で承認されました。

ちなみに本総会の議事録署名人には山口県協会の金田会長と共に私が選任されました。

2. 協議・報告内容等について

冒頭、松枝会長より、昨年度はかねてより協議して来た正式名称と定款の変更を10月1日付けで実施したこと、ブロック会議に加えてブロックもしくはブロックを越えた複数協会による情報交換会を新たに設置したこと、名称変更により名刺を配るだけで組織についての補足説明が不要になったこと、今年度からは理事を増員して「日診連」の略称の認知度を向上させ、さらに活発な活動を展開して行きたいと考えていることなどの挨拶がありました。

次に議案審議に入り、佐野専務理事や事務局による詳細説明で次の点について報告がありました。

①中小企業診断協会の令和6年度末会員数は13,174名（重複会員を除く）と前年度比667名の増加となった。また第1次試験受験者数は25,317名となり依然として高い水準を維持しており、2次試験申込者数は8,442名、合格者数は1次5,007名、2次1,516名、合格率はそれぞれ19.8%、18.0%となった。

「診断士バッジ」は、これまで約11,500個を配布済みである。

②令和7年度重点事業の詳細は次の通りです。

1. 診断士のブランディング戦略の推進

- ・品質の向上への取り組み
- ・中小企業診断士の日のPR活動
- ・会員中小企業診断士バッジ着用推進 他



2. 中小企業診断士による専門知識の共有化の推進

- ・サイボウズ社kintoneの活用、企業内診断士の活用促進、調査研究事業、スキルアップ研修、国際交流・協力事業 他

3. 日本中小企業診断士協会連合会（日診連）の広報と周知

③昨年度の総会承認を受けて、増員分として新たに次の4名が理事に選任されました。

今別府 忍（鹿児島）、清水 進矢（静岡）、前田慎一郎（長崎）、結城 渉史（山形）

④中小企業庁及び中小機構からの情報提供

総会終了後には中小企業庁事業環境部の田中補佐から「RESASのバージョンアップ」について、中小機構経営支援部の大東課長からは「価格転嫁支援ツール」についての情報提供がありました。



終了後は会場を移動し、西里副会長（沖縄県協会）の挨拶の後、ご来賓の中小企業庁経営支援課梁山課長の乾杯のご発声で懇親会が開催されました。

3. 総会に出席して

総会の席上で私から意見を述べ「診断士バッジ着用状況アンケート調査を行って実態を把握し、バッジを象徴としてシンボル化して一層の着用促進を図るべき。日診連HPが旧態依然としておりスマホ対応等も含めてバージョンアップすべき。」といったことをお願いしました。この意見は議事録に残り、検討すべき課題として私が所属している広報委員会等で協議することになります。日診連とのパイプを活かして、引き続き会員各位に各種情報を提供して行きたいと思います。

（以上）

【令和7年度の主な事業】

- 1 県協会の認知度向上に向けて
 - (1) 会報誌の発行やホームページでの情報発信により、県協会の認知度を高める。
 - ・会報誌の発行（年1回 No.33 R7・9/1発行予定）
 - ・ホームページを通じての積極的な情報提供
 - ・広報委員会独自アイデアの展開による広報強化
 - (2) “しんだんしフェスタ2025”の開催
 - 中小企業診断士の日（11月4日）制定に伴い、中小企業診断士制度のPRを行う。
- 2 会員の切磋琢磨に向けて
 - (1) 中小企業診断士登録更新研修（理論政策更新研修）の実施
 - 開催日 R7・9/6（土）13:00~17:10
 - (2) オープンセミナーの開催
 - 診断助言にあたり必要な知識や技能の習得に向けて、対象を会員外へも無料開放したセミナーを開催し、会員と中小企業者との切磋琢磨の場とする。
 - ① 組織の力を引き出す人材育成法
 - ～経営者と従業員の共創を促すコミュニケーション～
 - ② テーマ未定 開催日 9月中旬以降予定
 - (3) 本部調査研究事業応募支援
 - 会員診断士による調査研究事業応募にあたっての支援検討
 - (4) スキルアップ塾の開催
 - 講演活動や個別診断活動などを活発に行っている

- 3 受託事業の実施
 - 高度化診断助言事業を受託実施するなど、診断業務の会員への斡旋を行う。
- 4 公益的事業の実施
 - 県協会主催無料経営相談会を開催する。
- (5) 全国連本部斡旋事業の実施
 - 県生活環境衛生同業組合員対象経営支援事業や事業継続力強化計画策定・申請支援事業などのへの会員の参入を促進する。

《主要事業スケジュール》

R7・4/16(水)	監査会 県社会福祉会館講師控室
R7・4/26(土)	理事会(No.1)県社会福祉会館第四研修室
R7・5/17(土)	定時総会 協働大町ビル 千秋の間
"	理事会(No.2)
R7・6/16(月)	日本中小企業診断士協会連合会第70回定時総会
R7・6/27(金)	北海道・東北ブロック情報交換会仙台市 JALシティ仙台
R7・7/26(土)	オープンセミナーNO1 15:00~17:00 協働大町ビル
R7・8/29(金)	研修委員会 県社会福祉会館講師控室
R7・9/6(土)	2025年度登録更新研修会（理論政策研修）遊学舎 会議室
R7・9月中	オープンセミナーNO2（詳細は後日）
R7・11/1(土)	“しんだんしフェスタ2025”14:00~17:00 協働大町ビル
R7・11/5(水)	中小企業経営診断シンポジウム 東京ガーデンパレス
R7・11/21(金)	北海道・東北ブロック事務連絡会議 札幌市
R8・3/21(土)	理事会(年度末)

しんだんしフェスタ&オープンセミナーのお知らせと結果報告

【診断士フェスタ2025のご案内】

1 開催趣旨

一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会は、11月4日を「中小企業診断士の日」と定め、この日を中心に全国的に診断士制度のPRを行っています。

当協会では、この趣旨を踏まえ、日頃の県、市町村、商工会議所、商工会等の中小企業支援機関や県内中小企業経営者の皆様への御理解と御支援に感謝する行事として、毎年「しんだんしフェスタ」を開催してまいりましたが、今年も開催することとなりましたので、皆様の御出席をお待ちしております。

2 講演会

開催日 令和7年11月1日（土）14時~17時

場所 協働大町ビル 秋田市大町3丁目2-44

講師 玉川大学工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 小酒井 正和 氏

「ビジネスモデル革新によるファミリービジネスの危機対応:新型コロナ時の日独比較」(JSPS科研費 JP23H00850)に参加して、秋田県のファミリー企業の人的資本主義経営を研究しています。(大学HPより抜粋)

テーマ いま、なぜ秋田の中小企業に人的資本経営が必要なのか—企業の未来は“人”に投資することで変わる— (仮題)

【オープンセミナーの御案内】

毎年、県内中小企業診断士及び県内中小企業支援機関スタッフの皆様と共に研鑽し合う場として、オープンセミナーを無料で開催してしています。興味のある方はどなたでも参加できますので、お申し込みください。

1 オープンセミナーNO1（実施済み）

開催日 令和7年7月26日（土）

場所 協働大町ビル 秋田市大町3丁目2-44

講師 有限会社サイテック 取締役社長 齊藤 伸英氏
(元：株式会社齊藤光学製作所 代表取締役社長)
2021年事業承継後、人材育成や組織活性化に関する講座を企業や中小企業支援機関、小中学校、行政機関などで開催し、組織を活性化するためのアプローチに高い評価を得ています。

テーマ 組織の力を引き出す人材育成法

～経営者と従業員の共創を促すコミュニケーション～

2 オープンセミナーNO2

開催日 令和7年9月

詳細につきましては、後日公表いたします。

【フェスタ・セミナー等参加申し込み先】

オープンセミナー等に開催区分を記して、受講者氏名、御連絡先メールアドレスを明記の上、次のアドレスにお申し込みください。

info@shindan-akita.com



しんだんしフェスタ2024の様子

● ● ● 令和6年度活動記録 ● ● ●

(1) 会議等

月 日	行 事	参 加 者	場 所
2024/ 4/ 8	令和6年度事業及び決算に関する監査	監事・専務・局長	ミルハス
2024/ 4/20	理事会（第1回）R6FY総会開催の件・R5FY決算及びR6FY予算・新入会員等に関する件	理事・監事・局長	遊学舎
2024/ 5/18	R6FY定時総会R5FY決算に関する件(審議)・人事案件・R6FY予算等に関する件（報告）	会員	協働大町ビル
2024/10/18	東北北海道ブロック事務連絡会議	会長・小笠原浩之理事	ウェディングプラザ アラスカ

(2) 会長日程

年月日	会 議 名	場 所
2024/ 4/24	秋田県商工会連合会成長プラン 評価委員会	秋田県商工会館4F
2024/ 5/10	新しい診断協会の在り方に関する検討委員会	中小企業診断会館6F
2024/ 5/28	あきた企業活性化センター 理事会	社会福祉会館特別会議室
2024/ 6/ 7	東北経産局経営支援課 表敬訪問	仙台合同庁舎3F
2024/ 6/17	中小企業診断協会全国連 定時総会	銀座フェニックスプラザ
2024/ 6/19	秋田県事業承継ネットワーク会議	秋田県商工会館7F
2024/ 8/29	日本中小企業診断士協会連合会 広報委員会	(オンライン参加)
2024/ 9/13	秋田県商工会連合会 経営支援事例発表会	ANAクラウンズホテル
2024/10/22	秋田商工会議所経営発達支援計画 評価委員会	秋田商工会議所1F
2024/11/ 5	中小企業診断協会創立70周年記念式典	帝国ホテル
2024/11/ 6	中小企業診断シンポジウム	東京ガーデンパレス
2024/11/11	秋田県司法行政職能団体連絡協議会（九士会）	秋田市
2024/11/27	秋田県女性起業家大賞 審査会	秋田県商工会館7F
2025/ 1/31	秋田市中小企業振興条例 推進会議	秋田市役所5F会議室
2025/ 2/ 5	秋田県女性起業家大賞 表彰式	秋田キャッスルホテル
2025/ 2/ 6	買い物弱者支援セミナー（新潟県庁主催）	(オンライン)
2025/ 2/13	日本中小企業診断士協会連合会 広報委員会	中小企業診断会館6F
2025/ 2/18	小規模協会サミット	中小企業診断会館6F
2025/ 3/ 3	秋田商工会議所経営発達支援計画 評価委員会	秋田商工会議所1F
2025/ 3/ 4	東北経産局 PMIセミナー＆特別講演会	仙台合同庁舎B棟A棟
2025/ 3/27	Kintone活用オンラインミーティング	(オンライン参加)

(3) 各研修概要

月 日	イベント区分	演 題	講 師	場所＆参加者
2024/ 5/18	総会記念講演	中小企業・小規模事業者に係る経営支援策動向	酒井原 啓人東北経済産業局経営支援課長	協働大町ビル33名
2024/ 7/13	オープンセミナー№1	スポーツを通じた街づくり・人づくり・夢づくり	岩瀬 浩介氏株式会社ブラウブリッツ秋田 代表取締役社長	パーティーギャラリー イヤタカ26名
2024/ 9/ 7	理論政策更新研修	新しい中小企業政策について中小企業の人材戦略支援	荒川 祐次秋田県産業政策課政策監 馬取 泰明中小企業診断士	遊学舎55名
2024/10/ 5	オープンセミナー№2	従業員の成長成功から一貫した理念経営 ～村で2年半60名の採用に成功した「なるテック」の話～	近藤 純光氏東成瀬テックソリュー ションズ㈱代表取締役社長	パーティーギャラリー イヤタカ20名
2024/11/ 2	しんだんしフェスタ2024Ⅰ部	令和7年度中小・小規模事業施策動向	酒井原 啓人東北経済産業局 経営支援課長	秋田県総合生活文化会館 (アトリオン) 33名
	しんだんしフェスタ2024Ⅱ部	秋田の海 ～ 安全安心と振興	講師 江口 満 氏前海上保安大学校長	

(4) 役員協議

月 日	テ ー マ	対 応
2024/ 6/ 3	事業継続関連リストの件	会長・専務・局長
2024/10/19	ブロック会議報告	正副会長・専務・理事・監事・局長
2024/10/31	診断士フェスタ出席直前情報	理事・監事・局長・研修委員
2024/11/13	九士会参加報告	会長・専務・事務局長
2024/11/20	北海道・東北ブロック会議の日程調整について	役員
2025/ 2/ 6	東北経産局からの連携打診	会長・役員
2025/ 2/16	R7FY理論政策研修診断理論及び事例研究テーマアンケート結果について	正副会長・専務・理事・監事・局長・研修・総務委員
2025/ 3/ 2	6月の情報交換会のご案内	会長・専務・局長
2025/ 3/23	次年度に向けての連絡	会長・理事
2025/ 3/27	【日診連】理論研修講師の略歴書について	会長・専務・局長
2025/ 3/27	kintoneオンライン解説のご案内	会長・理事
2025/ 3/31	退会届の受領について	会長・専務・局長

❖ 会 員 一 覧 ❖

(R7・7/1 敬称略)

氏 名	所 属	eメール
荒 牧 敦 郎		armk@nifty.com
石 川 聡	(株)あきぎんりサーチ & コンサルティング	
伊 藤 朗	(株) A B C オ フ ィ ス	akira.i@ abc-office.co.jp
岡 部 宗 澄	三井住友海上あいおい生命保険(株)	
小笠原 貴 史	フ ォ ー ム ズ (株)	ogasawa@nifty.com
小笠原 浩 之	中小企業診断士 小笠原浩之事務所	ogasawara.hiroyuki@outlook.jp
加賀谷 勝 臣	経営改善チャレンジャーin秋田	katsukkidan@outlook.jp
鎌 田 晶 子	中小企業診断士 鎌田晶子事務所	amkma.ak@gmail.com
川 辺 健 一	(株) 北 都 銀 行	
菊 地 正 智	(株)Nui Tec Corporation	ptpt15821603@yahoo.com.jp
久 米 祐 也		
栗 林 祐 治	(株) 北 都 銀 行	
櫻 田 誠 二	さくらだコンサルティング事務所	senboysaku@outlook.com
桜 庭 大 樹	(株) 秋 田 銀 行	
佐々木 正 記		
佐 瀬 道 則	MSコンサルティング	michinori1217@yahoo.co.jp
佐 藤 元 紀	ロジガード株式会社開発センター	pg2s00001@gmail.com
佐 藤 徹	秋田県社会福祉協議会	toru-sato@akitakenshakyo.or.jp
佐 藤 善 友	(有)ジー・エフ・シー	gfc@gfcweb.info
菅 原 美 晴	インスペック (株)	
杉 山 健 一	(株) 秋 田 銀 行	
鈴 木 拓 斗	(公財)あきた企業活性化センター	
高 木 和 昭	秋 田 県 事 業 承 継 ・ 引継ぎ支援センター	takagi@kumagera.ne.jp
高 橋 彦	G E N C	gencmisato@yahoo.co.jp
鶴 田 卓 也	あすな社会保険労務士・ 中小企業診断士事務所	takuya.tsuruta529@gmail.com
戸賀瀬 康 弘	(株) 秋 田 銀 行	
成 田 広 樹	高井会計事務所	
袴 田 貴	袴田貴税理士事務所	ta-hakama@shirakami.or.jp
長谷川 晃	エンカレッジコンサルティング	a.h@encourage-consulting.biz
畑 沢 健	北 都 銀 行	
樋 口 清 行	中小企業診断士 樋口清行事務所	dogenzen@hana.or.jp
藤 中 康一郎	秋 田 県 庁	
藤 崎 學	藤崎ビジネスサポートオフィス	fuji-mnb@uranus.dti.ne.jp
藤 嶋 智	BRACE CONSULTING	brace-consul@ab.auone-net.jp
古 木 智		
堀 辰 生	秋 田 市 役 所	
松 舘 文 子	経営コンサルティング はーとBiz	heartbizakita@gmail.com
三 浦 雅 人	(株) 秋 田 銀 行	
三 平 久 孝	秋田ふるさとラボ	hi.mihira2@gmail.com
宮 田 誉 大	(株) サ ン ワ	
守 部 達 也	税理士法人 MIRAI	
吉 田 雅 史	税理士法人ザイム・ゼロ	
渡 部 信 子	コンパス a k i t a	no-bu@mud.biglobe.ne.jp
渡 邊 望 東	(株) 秋 田 銀 行	

編 集 後 記

今号より「診断あきた」の編集委員を務めさせていただくことになりました。初めて制作に参加し、戸惑うことも多くありましたが、皆さまのご協力のおかげで、無事に誌面をお届けすることができ、ほっとしております。

制作を通じて誌面作りの大変を感じるとともに、あらためて多様な活躍をされている方がたくさんいることを実感しました。また、一つひとつの記事に向き合う中で、本当にたくさんの方のことを学ばせていただきました。皆さまにとっても少しでも役立つ情報になれば幸いです。

次号以降も、皆さまの活動や、活動にあたっての有益な情報をお届けできるよう、魅力的な誌面づくりを目指してまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。(菅原)

今号も発行の運びとなりました。改めて本誌を手にしたとき、今まで事務方を一手に引き受けてくださっていた富野先輩に対する感謝の念を新たにしましたところ。また、今回も多くのご協力を得て多様な内容をお届けできたことに感謝申し上げます。

秋田の経済や社会の変化に伴い、診断士の役割はますます重要になっています。「診断あきた」は年1回の発行ですが、会員である診断士の皆様を県内の中小企業者及び支援機関に知ってもらう手段の一つでもあります。

本誌をお手にされた皆様にとって有益な示唆を提供し、活動の一助とするために、皆様のご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。皆様の声が、より良い誌面作りにつながると確信しておりますので、ご協力くださるようお願いいたします。

(Fuji)

今号から、診断あきたの編集は3人体制になりました。

これからも、会員同士のつながりや協会の活動が身近に感じられる紙面を目指していきたいと思います。

そして、もう一つ！

ご案内のとおり、キントーンの本格運用が始まりました。

パソコンの中に、必要な案内や資料が整理された「本棚」と、協会の掲示板が設置されたような感じ。

「あの案内、どこだっけ？」とメールをほじくり返すことも無くなります。

小笠原さんと事務局長の渡部さんに感謝！

みなさんもぜひ、フルにご利用ください。

私も使いこなせるように頑張ります！(松舘)